

委員会審査

6月定例会で委員会に付託された議案等について審査を行いました。

総務文教委員会

委員長 矢間 一義

■図書館建設について

問 検討委員会の答申までの経緯と分館との連携について

答 第1回目の委員会で4つの候補地の中から、敷地の面積や交通アクセスの利便性などを総合的に判断した結果、東若宮が最有力候補地として決定され、その後先進地視察を行うなどの検討を重ね、第4回目の検討委員会終了後、市長に対し、中間報告として「大洲市立図書館の位置に関する報告書」が提出された。

新図書館の入館者数の予測については、現図書館の入館者は年間約2万7千人であるが、先進地の建替後の実績を参考にし、年間6万人程度の入館者を見込んでいる。また、分館との連携は、コンピュータを利用



新図書館完成予想図

して、分館からも本館の図書を出すことができるシステムの導入を検討している。

■地域環境整備事業による防火水槽新設事業及び小型動力ポンプ付き積載車購入について

問 事業採択の見通しと積載車の種類について

答 現在採択の見通しは不透明である。県の補助事業は今年度が最後であることから、不採択の場合は、次年度以降市単独事業として実施せざるを得ないと考えている。

今回購入予定の「ポンプ付積載車」は、積み下ろし式の可般ポンプが付いた積載車のことで、車が進入できない場所でもポンプを運んで行き放水することが可能である。一方「ポンプ車」についてはポンプを下ろす必要がなく、ポンプの能力も可般ポンプに比べて優れており、価格も高額となる。

企画財政委員会

委員長 村上 常雄

■統合電算システムプログラム改良業務委託について

説明 平成20年度から新しく後期高齢者医療制度が実施されるため、新制度に対

応する新しい電算システムの構築と、関連する住民記録システムや住民税システムなど広範囲にわたり既存の電算システムを改修する経費として6,090万円計上しているものである。

問 高額な費用に対する国の負担について

答 今回の新システム構築及び既存システム改修における国庫補助金は785万5,000円で、自治体の負担をもっと少なくするよう要望が出されているが、ごく僅かな支援しか受けられないのが実情である。

そのような中、市としても保守・改修費用の軽減を図るため、今年度からシステムの保守・改修業務を地元専門業者に一括して委託し、できる限りの努力をしている。

■うかいの活性化について

問 今年50周年を記念して開催される「第14回全国鵜飼サミット大洲大会」の主な内容と、今後のうかいの取り組みについて

答 鵜飼いサミットは、9月4日・5日の2日間開催し、現在の課題や将来の鵜飼いのあり方について話し

日本三大鵜飼いの一つとして期待される大洲のうかい



合うとともに、フォトコンテストの開催やPRポスター等の作成、記念誌の発行などを計画しており、サミットの参加者は約150人程度を予定している。

うかい観光客の減少に対する今後の対策としては、「夫婦でうかい」や「家族でうかい」など新たな客層の掘り起こしに取り組み、平成4年まで維持していた2万人台に回復するよう全国に大洲のうかいの特色などを広くPRしていきたい。

また、リピーターを確保するには船頭さんのガイド力の向上が重要であるため、